

令和7年10月9日

AI × 日本語教育 × CEFR ~ 宮崎大学日本語教育シンポジウム 2025 を開催 ~

この度、宮崎大学日本語教育部門では、国内外の研究者を招き、AIと CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠)をテーマとした「宮崎大学日本語教育シンポジウム 2025」を以下の通り開催することとしましたので、御案内させていただきます。(詳細は別紙)

近年、DeepL などの翻訳 AI や ChatGPT などの対話型生成 AI は、日本語教育の現場においても注目を集めています。一方で、「AI に仕事を奪われるのではないか」 「最新の技術についていけるのだろうか」といった不安の声も聞かれます。こうした状況をふまえ、本シンポジウムでは AI を教育に活用する利点や実践例を紹介し、教育関係者や学生に広く共有します。

さらに、文部科学省が策定した「日本語教育の参照枠」は、欧州評議会が策定した CEFR を参照して推進されています。しかし、CEFR は複雑であり、宮崎県内の教育関係者において CEFR の理解は十分に浸透していません。本シンポジウムでは、文部科学省日本語教育小委員会の委員を務める専門家を含む講師陣を迎え、AI と CEFR を結びつけた最先端の議論を展開します。

つきましては、貴社の「インフォメーションコーナー・お知らせコーナー」等への掲載や取材について検討していただきますようお願いいたします。

記

〇日 時:令和7年10月18日(土) 13:30~17:00

〇会 場: 宮崎大学錦本町ひなたキャンパス 1階講堂3 (宮崎市錦本町 4-5)

○当日の主なスケジュール:

総合司会(宮崎大学多言語多文化教育研究センター 日本語教育部門長 講師 小柴裕子) 13:30-13:40 開会あいさつ(宮崎大学国際担当理事 吉成安恵)

- ① 13:40~14:00 「宮崎大学における ChatGPT を取り入れた日本語授業実践 ~初級から上級までの課題と展望~」小柴裕子・椎葉淑乃・和田恵・狩野貴美子(宮崎大学)
- ② 14:05~14:25 「日本語教育人材に求められる異文化間コミュニケーション能力とは -AI を用いた Can-do の構築- 」 葦原恭子 (琉球大学)
- ③ 14:40~15:20「CEFR の 6 つの特徴と AI とはベストマッチ」大木充(京都大学)
- ④ 15:25~16:05「AI 時代の選択と共存:JFL 日本語教育の現場から見える『終わり』と『始まり』」 李羽喆(マカオ大学)
- ⑤ 16:10~16:50 「生成 AI を活用した日本語ライティング支援ツールの可能性:生成 AI は天使か 悪魔か」李在鎬(早稲田大学)
- ⑥ 16:50~17:00 閉会あいさつ(京都大学名誉教授 大木充)

○その他:

- ・参加希望の方は、別添チラシに掲載された QR コードから申し込みください。(参加費無料)
- ・駐車場はありませんので、近隣の有料駐車場をご利用ください。

お問い合わせ先

多言語多文化教育研究センター(小柴)

メール:koshibayuko@cc.miyazaki-u.ac.jp

TEL:0985-58-7570 or 7104

発信元

企画総務部総務広報課

メール:kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp

TEL:0985-58-7114

宮崎大学日本語教育シンポジウム 2025 「AI× 日本語教育×CEFR」

日時:2025年10月18日(土)

 $13:30 \sim 17:00$

場所:宮崎大学錦本町ひなたキャンパス

(わくわくセンター)1階 講堂3



参加費:無料 申込は QR コードよりお願いします。

くプログラム>

13:30~ 開会のあいさつ

第一部

- ① 小柴裕子・椎葉淑乃・和田恵・狩野貴美子(宮崎大学) 「宮崎大学における ChatGPT を取り入れた日本語授業実践〜初級から上級まで の課題と展望〜」
- ② 葦原恭子(琉球大学) 「日本語教育人材に求められる異文化間コミュニケーション能力とは -AI を用いた Can-do の構築 - I

第二部

- ③ 大木充(京都大学)「CEFR の 6 つの特徴と AI はベストマッチ」
- ④ 李羽喆(マカオ大学) 「AI 時代の選択と共存:JFL 日本語教育の現場から見える『終わり』と『始まり』」
- ⑤ 李在鎬(早稲田大学) 「生成 AI を活用した日本語ライティング支援ツールの可能性:生成 AI は天使か 悪魔か」

閉会のあいさつ

お問い合わせ

宮崎大学多言語多文化教育研究センター 小柴裕子

Email:koshibayuko@cc.miyazaki-u.ac.jp

この公開研究会は、科学研究費助成事業 李在鎬「生成 AI を組み込んだ日本語作文診断システムの開発と普及に関する研究」(24K00078 研究代表李在鎬)、葦原恭子「日本語教育人材に求められる異文化間コミュニケーション能力とは - Cando の構築 - 」(23K00610 研究代表葦原恭子)、大木充「翻訳 AI・生成 AI による自律性支援と学習者の動機づけ」(24K04053 研究代表大木充)、李羽喆「Opportunities and Challenges in Japanese Language Education in the Greater Bay Area: GenAI and Language Policy Perspectives」(SRG2024-00059-FAH 研究代表者李羽喆)の一環として行われます。